

## 4. 河川整備計画の目標に関する事項

### 4.1 洪水・高潮等による災害の発生の防止または軽減に関する目標

#### 4.1.1 目標設定の背景

関川水系では、激甚災害対策特別緊急事業等による大規模な引堤事業を実施したほか、河道掘削や樹木伐採等による治水対策を継続的に行ってきたが、依然として治水安全度が十分に確保されていない状況にある。このため、特に支川の保倉川の整備が遅れていることを考慮しつつ、計画的な治水対策を実施する必要がある。

#### 4.1.2 整備の目標

##### (1) 戦後最大規模の洪水を安全に流下させる河道整備

関川水系においては、本支川の治水安全バランスを考慮して本川関川の戦後最大洪水に相当する規模の洪水を本支川ともに安全に流下させることを整備の目標とする。

表 4-1 関川水系における河道配分流量

河川名	地点名	地先名	河道配分流量
関川	高田	新潟県上越市北城町	2,600m <sup>3</sup> /s
保倉川	松本	新潟県上越市頸城区下吉新田	800m <sup>3</sup> /s
	放水路	—————	700m <sup>3</sup> /s

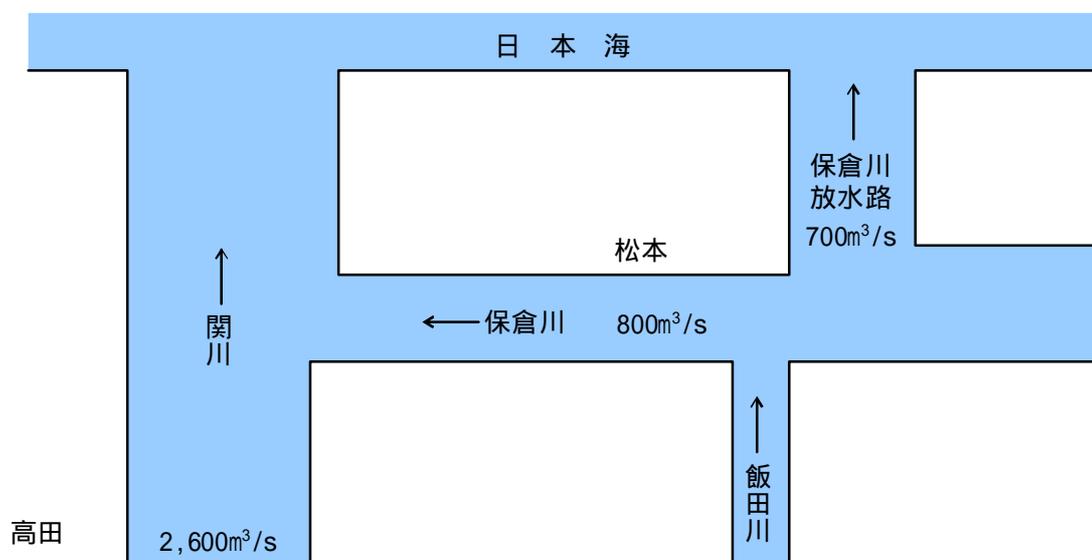


図 4-1 主要地点における河道配分流量

**(2)．大規模地震等への対応**

新潟県中越地震や中越沖地震に鑑み、地震による損傷・機能低下や、地震発生後に来襲する津波によって被害が発生するおそれのある河口部の河川管理施設について必要な対策を実施し、地震後の壊滅的な浸水被害を防止する。

**(3)．危機管理体制の強化**

保倉川放水路の整備等によるハード対策に加え、関係市町が作成するハザードマップの積極的な支援や自治体との防災情報の共有、インターネット等を用いた災害関連情報等の提供によるソフト対策を推進し、計画規模を上回る洪水や整備途上段階で施設能力を上回る洪水により氾濫が発生した場合においても被害を最少化する『減災』を図る。

## 4.2 河川の適正な利用および流水の正常な機能の維持に関する目標

### 4.2.1 目標設定の背景

関川は、渇水被害を経験しておりその被害軽減を図るため、河川管理者・利水者等で渇水情報連絡会等を通じて、渇水に対する対策や情報交換等が行われている。

人々の生活はもとより多様な動植物の生息・生育環境の保全、水質保全や地下水保全を図るためには、このような渇水に対して必要な流量の確保に努めるとともに、限りある水資源を有効に活用する必要がある。

また、良好な水質を保全するためにも、流域一体となって継続的な水質改善に取り組む必要がある。

### 4.2.2 整備の目標

#### (1).適正な水利用を促進

河川水の利用に関しては、限りある水資源の有効利用を考え、より適正な水利用が図られるよう努める。また、渇水時には、水利用による調整を速やかに行えるよう利水者間の調整環境づくりに努める。

#### (2).流水の正常な機能の維持

関川水系河川整備基本方針に基づき、高田地点において概ね6 m<sup>3</sup>/sを確保するよう努める。

また、関川流域の健全な水環境のため、流域の支川も含めた河川の平常時の水のあり方について検討する場を設ける。特に関川上流部の<sup>げんすいくかん</sup>減水区間<sup>9</sup>の解消に向けてガイドライン放流を進める。

#### (3).良好な水質の保全

代表地点において、環境基準を達成し良好な水質を維持するため、継続的な水質観測を実施、水質の動向把握に努める。また、県、沿川自治体、地域住民と連携し、水質保全に向けた取り組みを実施する。

<sup>9</sup> 本来河川に流れている流量から発電や農業用水などの使用取水水量分が減水されている区間

#### 4.3 河川環境の整備と保全に関する目標

##### 4.3.1 目標設定の背景

河川環境の整備と保全にあたっては、河川環境管理基本計画に基づいて、適正な環境管理を行っていく。

##### 4.3.2 整備の目標

###### (1).動植物の生息・生育環境の保全

既設横断構造物等の施設管理者に理解を求め、改善に向けた調整に取り組む等、魚が棲みやすい川づくりを推進する。また、水生動植物の生息環境の保全ために流水の連続性確保、水質の改善等を関係機関と連携して取り組む。

###### (2).河川環境と調和を図った河川整備を促進

河川空間の整備にあたっては、関川周辺の歴史や自然等の特徴を踏まえながら、住民ニーズに応じた多様な利用空間の創造に努める。加えて、親水施設のバリアフリー化に取り組む。

###### (3).流域全体を捉えた保全方策の検討

より望ましい河川管理のため、流域を面的に捉えることが重要である。このため、流出率の変化や土砂移動に与える影響など流域内の情報を関係機関と共有するとともに河川環境の情報提供に取り組む。

#### 4.4 河川の維持管理に関する事項

##### 4.4.1 目標設定の背景

「災害の発生の防止」、「河川の適正な利用」、「流水の正常な機能の維持」、「河川環境の整備と保全」等の観点から、これまでに様々な施設が整備されてきた。

これらの施設の機能が適切に発揮されるよう管理、現状監視（モニタリング）を実施していく。

##### 4.4.2 維持管理の目標

河川管理施設が本来の機能を発揮できるよう、河川管理施設の状況を的確に把握するとともに状況に応じた改善を実施する。

表 4-2 維持管理の目標

管理項目		目標
河川管理施設	堤防	洪水を安全に流下させるために必要となる堤防の断面や侵食・浸透に対する強度、法面の植生などの維持・持続に努める
	護岸	洪水時に流水の作用に対して、護岸の損壊による河岸崩壊や堤防決壊を防止するために、護岸や基礎部の根入れの維持・管理に努める
	樋門・樋管 排水機場等	洪水時に施設が正常に機能するために必要となる施設やゲート設備等の強度・機能の維持に努める
河道	河道	洪水を安全に流下させるために必要な流下断面の維持に努める
	樹木	洪水を安全に流下させるため、流下阻害となる樹木群の適正な維持管理に努める
河川空間		適正な河川利用と安全が確保されるよう努める